

国指定史跡

あおき いせき 青木遺跡



①H35号墳
全長33mの前方後円墳。青木遺跡最大の古墳。



②H42号墳(箱式石棺・移築復元)
板石で組み立てられた箱式石棺を持つ埋葬施設。



③H39号墳
全長27mの前方後円墳。後円部に比べ前方部が小さく、帆立貝のような墳丘を持つ。



1号地の現況

史跡公園内には、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴住居跡23棟、掘立柱建物跡9棟、古墳時代中期から後期の古墳17基などが保存されています。

現在、これらの遺構は埋め戻されて、一部は標識やツツジの植込みで位置を表示してあります。



— 園路
■ 古墳 ■ 竪穴住居跡 ■ 掘立柱建物跡

史跡公園



交通アクセス ●[JR]「米子駅」から路線バス、溝口・日野方面(八郷線、二部線、根雨線、賀野・岩屋谷線(御内谷行きを除く))行きに乗車「安養寺入口」下車 徒歩すぐ

●[車]「米子駅」から【約15分】
「山陰道米子南IC」から【約5分】

このリーフレットは、令和6年度に「市内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用して作成しました。



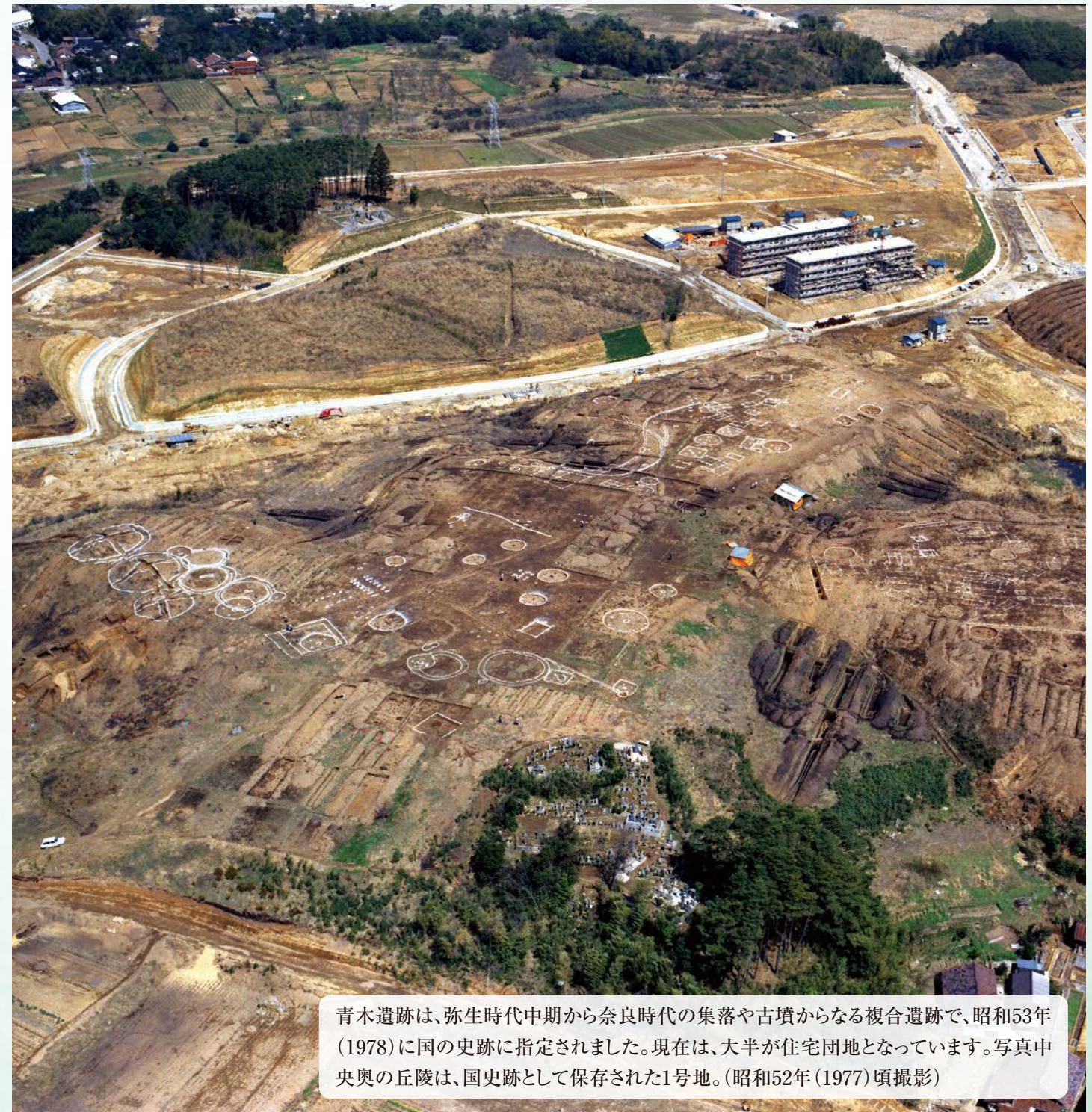
米子市福市考古資料館

福市・青木遺跡の出土遺物を中心に米子市内で発見された考古資料を展示しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:30～17:00
※ただし入館は16:30まで
- 休館日 毎週火曜(祝日の場合翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

〒683-0011 米子市福市 461-20
TEL・FAX 0859-26-3784
ホームページ
<https://yonagobunka.net/kouko/>

発行：米子市文化振興課 0859-23-5438



青木遺跡は、弥生時代中期から奈良時代の集落や古墳からなる複合遺跡で、昭和53年(1978)に国の史跡に指定されました。現在は、大半が住宅団地となっています。写真中央奥の丘陵は、国史跡として保存された1号地。(昭和52年(1977)頃撮影)

米子市・米子市教育委員会

山陰地方を代表する集落遺跡

青木遺跡は、日野川と法勝寺川に挟まれた長者原台地に広がる弥生時代から古墳時代を中心に営まれた集落遺跡です。昭和46年(1971)から昭和52年(1977)にかけて実施された住宅団地造成工事に伴う発掘調査では、竪穴住居跡206棟、掘立柱建物跡260棟など多くの遺構や、土器や石器など数万点に及ぶ遺物が発見されました。昭和53年(1978)には、古代の人々の暮らしや生活の移り変わりを知る貴重な遺跡として、調査面積約40万㎡のうち1／10に相当する4万㎡が国史跡に指定されました。

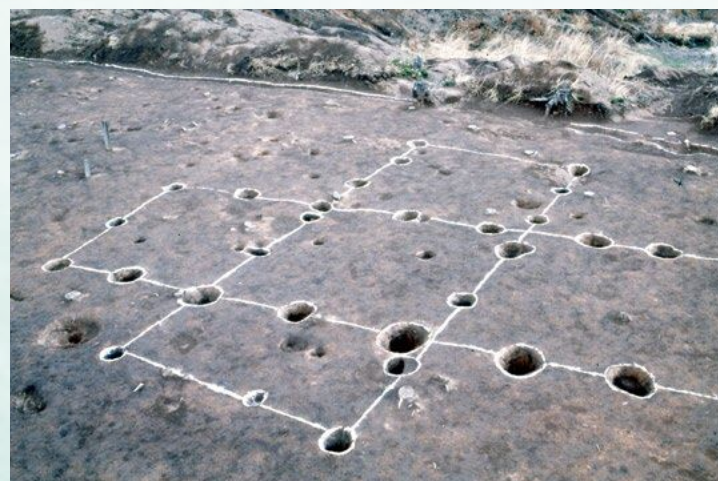


丘陵に営まれた集落群

青木遺跡に初めて集落が営まれたのは、今から2000年以上前の弥生時代中期(紀元前2世紀～前1世紀頃)です。それから古墳時代前期(4世紀)にかけて、台地の中央から西部を中心に多くの竪穴住居や掘立柱建物が建てられました。また、一部の地区では奈良時代(8世紀)の集落跡も確認されています。これらの建物は幾度も建て替えられたため、住居跡や柱穴が密集した状態で検出されています。青木遺跡のすぐ北側には、弥生時代後期から古墳時代にかけて集落が営まれた福市遺跡があり、丘陵一帯で多くの人々が生活していたことが確認されています。



青木遺跡南西部



建て替えられた掘立柱建物 (全長 9m)

埋葬された首長達

古墳時代になると、青木遺跡の丘陵上には、前方後円墳4基、方墳12基、円墳39基の計55基の古墳が次々と築造されました。このうち、最大の前方後円墳(H35号墳)は全長33mの規模です。この古墳は発掘調査が行われていないため、埋葬施設はわかりませんが、この地域を治めた首長の墓と推測されます。また、北西部の丘陵先端では、周囲に溝を巡らした31基の方形周溝墓が築かれています。ここには、様々な階層の人々が葬られたと考えられます。



石棺内の人骨



一辺 11m の方墳



直径 26m の円墳

また、西側の丘陵上では、方墳10基、円墳7基が調査され、土器棺や箱式石棺、割竹形木棺などの多様な埋葬施設が見つかりました。古墳からは青銅製の鏡が1点出土しましたが、いずれも副葬品が少なく、小規模な古墳であることから、これらは青木地域の集落を率いた小首長の墳墓群と考えられます。



古墳時代前期の方墳群



3 個の土器を繋げた土器棺



大型竪穴住居

弥生時代の有力者の住まい

丘陵北西部で発見された直径約8mの大型竪穴住居跡からは、半分に割られた青銅製の八咫鏡(ヤタノカミ)が出土しました。青木遺跡の中でも最大級の建物で、集落を率いた有力者の住居だったと考えられます。



八咫青銅鏡



縄文時代の落とし穴

縄文時代の落とし穴

青木遺跡では、3000年以上前の縄文時代に掘られた228基もの落とし穴が発見されています。落とし穴の底にはウサギやイノシシなどの獲物に怪我を負わせるための杭が立てられていた穴が認められます。